

## 徳島県介護支援専門員協会臨時理事会からの意見まとめ

日 時：令和2年8月25日（火）午後7時～午後8時30分

場 所：Zoomによるリモート会議

出席者：理事総数20名中17名出席

### 【事例の共有】

1. 利用者の家族に陽性反応が出たため、利用者が濃厚接触者となる。
  - ・施設からの受入れ拒否。
  - ・医療機関からも、感染者でないことから受入れ拒否。
  - ・ホテルも、高齢者介護の対応ができないことから受け入れ拒否。
  - ・2週間はまったくサービスが提供できない状態となり、サービス調整が難しかった。
  - ・ヘルパーステーションでは、感染防護服等に対応できない事業所がほとんどではないか。
2. デイサービス利用者に感染者が発生
  - ・感染が住民に拡大しないか、一番心配であった。
  - ・スタッフ自身やその家族に感染しないか、ストレスが倍増した。
3. ケアハウスで感染者が発生
  - ・すべての入居者が自室待機・面会禁止となった。
  - ・最初の陽性者が入院後、その方の濃厚接触者がPCR検査で陰性から数日後に陽性になった方もいたため、スタッフは常に完全な防護服での対応を要した。
  - ・外部からの訪問系サービスは提供拒否されたため、同法人内でできる範囲でカバーした。
4. 担当利用者が通っているデイサービスで感染者が発生し、自分の利用者は「接触者」となった。
  - ・デイサービスは2週間休止し、その間のサービス調整に苦労した。
  - ・検査から結果確認まで12時間かかる。
  - ・その間はマスク着用のみで訪問したが、感染リスクが怖かった。
  - ・施設は感染防護して入る、通所系は休止しても仕方がない、が「訪問系はできるだけ入ってもらいたい」と言われても、事業所としてはできれば入りたくない、というのが本音。
5. 市町村の連携
  - ・初動は県と保健所なので、市町村には陽性でなければ特に連絡はない。
  - ・市町村への情報提供が遅く、不足している。
  - ・市町村連携は今後の課題もある。
6. 看護協会としての活動
  - ・県や東横インに看護師を派遣するなどの対応をしている。
  - ・県から防護服一式を提供してもらったが、防護服の取り扱いに苦労した。
  - ・感染防護の正しい知識が必要だが、学ぶ機会が少ない。
  - ・訪問看護では、①絶対に訪問する、②回数を減らす、③とりあえず様子をみる、の3段階にトリアージするようにし、具体的な手順を作成している。
7. その他
  - ・感染者が発生した場合、施設や通所系サービスには共通の判断基準があるが、訪問系サービスは事業所の判断に任されており、感染リスクが怖いため休止するところが多い。
  - ・施設、通所系サービスが停止された状態で、訪問系サービスの継続は不可欠。
  - ・県から訪問系事業所に対して「必要以上の利用抑制を行わない」よう要請してもらいたい。